

ちょっとそこまで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



のふところにある飯田・下鶴・砥川地区。
広がる青田がまぶしく映ります。この
地域の昔ながらの習わしや伝統行事など、訪ね歩いてみました。



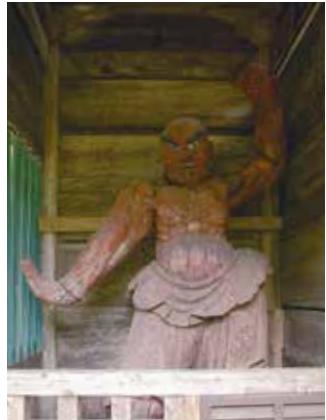
「権現さん」と親しまれている神社の鳥居は、地区の人たちの手作り

飯田・下鶴・砥川編



左から木村孝一さん、高木敬司さん、山本義幸さん、上田勝男さん、田口幸明さん

山門の左右には、それぞれ1体の仁王像が立っています



山門から見える本堂。飯田山常楽寺



天台宗
大聖院

祈りの聖地 「飯田山常楽寺」と 「白山神社」

雨に洗われ、しつとりと潤いを含

んだ「飯田山常楽寺」の山門の石段。
通称「乱れ石」といわれるこの石段

は、「乱れ積法」と呼ばれる珍しい積

み方がなされています。

飯田山の山腹にある「飯田山常楽寺」は、平安末期に建立されたと伝わる天台宗の寺。最盛時には36の僧坊があり、300人近くの僧侶が修行に励んでいたといわれています。仁王像が2体左右に鎮座する山門から望む本堂は風格漂うたたずまい、境内は厳かな雰囲気に包まれ

ます。熊本地震で倒壊した拝殿も再建され、「新しい鳥居は地区のみんな

で作りました」と山本義幸さん(61)が教えてくれました。

2つの山に伝わる民話 「やまのせいくらべ」

で作りました」と山本義幸さん(61)
が教えてくれました。

「白山神社」から100mほど上
ると、標高431mの飯田山の頂上
に着きます。ここからの眺めは圧
巻。熊本市内が一望でき、はるか遠

くに長崎県島原市の普賢岳も見え
ます。飯田山のちょうど真向かいに
相対するのが、熊本市内西部に位置
する標高665mの金峰山。この2

つの山には「やまのせいくらべ」と
いう民話が残されています。

昔むかし、飯田山が金峰山に背比べを挑みました。金峰山が「おれに